

作曲家の個展 2011

A profile of a composer "Masahiro Miwa"

プレコンサート・トーク 聞き手:中ザワヒデキ(美術家)

Masahiro Miwa (1958-)

Bolero by
Muramatsu Gear
Engine (2003)

A Song in Praise
of Love or Four
Bits Gamelan
(2007?)

"Lux aeterna
luceat eis,
Machina" for
orchestra and
CD player
(2011)

(commissioned by Suntory Foundation
for Arts · world premiere)

村松ギヤ・エンジンによるボレロ (2003)
愛の讃歌—ガムランアンサンブルのための (2007?)
「永遠の光・・・」オーケストラとCDプレーヤーのための
(2011) (サントリー芸術財団委嘱作品・世界初演)



指揮：野平一郎
Ichiro Nodaira, conductor
管弦楽：東京都交響楽団
Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra
ガムランアンサンブル：マルガ・サリ
Gamelan Marga Sari

2011年10月2日(日)

15:00開演 (14:00開場)

サントリーホール

プレコンサート・トーク 14:20—

15:00 Sunday, October 2, 2011

Suntory Hall

■入場料:S席=4,000円/A席=3,000円/
B席=2,000円(全指定席/税込)

■お問い合わせ・予約:東京コンサツ
TEL.03-3226-9755/FAX.03-3226-9882

<http://www.tokyo-concerts.co.jp>

■チケット取扱:

サントリーホール・チケットセンター TEL.03-3584-9999

チケットぴあ TEL.0570-02-9999[Pコード:142-662]

ローソンチケット TEL.0570-000-407[L:31697]

東京文化会館チケットサービス TEL.03-5685-0650

e+(イープラス)eplus.jp

主催=公益財団法人サントリー芸術財団

協賛=サントリーホールディングス株式会社

助成=芸術文化振興基金

制作協力=東京コンサツ

作曲家の個展 2011 三輪眞弘

作曲家の個展について

サントリー芸術財団では、サントリー音楽賞の贈呈とその記念公演の開催に加え、「邦人作品の振興」を基本理念に、芥川作曲賞の贈呈、国際作曲委嘱、日本人作曲家の作品リストの出版、邦人作品を演奏するコンサートへの助成などの諸事業を行っています。「作曲家の個展」シリーズもその一環であり、毎年わが国のすぐれた作曲家1名を選び、その主要作品をまとめて紹介するコンサートで、これまでに28人の作曲家を取り上げ、好評を博してきました。第31回となる本年は、メディアアーティストでもある作曲家三輪眞弘氏の作品を演奏します。すぐれた批評精神に基づき独自の方法論を探求しつづける氏は、「逆シミュレーション音楽」で、メディアアート界で最も権威あるアルスエレクトロニカゴールデン・ニカ賞や、芸術選奨を受賞するなど、世界的に注目を集めています。指揮者には、作曲家・ピアニストとしても活躍する野平一郎氏を迎え、東京都交響楽団、マルガ・サリの演奏で、委嘱新作・近作などをお楽しみいただきます。ご期待ください。

三輪 真 弘

1958年東京生まれ。1974年都立国立高校入学以来友人と共に結成したロックバンドで音楽活動を始める。1978年渡独、国立ベルリン芸術大学で作曲をイサン・ウンに師事。1985年より国立ロベルト・シューマン音楽大学でギュンター・ベッカーに師事する。1986年より同大学で、1995年よりケルン・メディア芸術大学でコンピュータ音楽の講座を担当。

1985年ハムバッヒャー国際作曲コンクール佳作、1989年第10回入野賞第1位、1991年「今日の音楽・作曲賞」第2位、1992年第14回ルイジ・ルツソロ国際音楽コンクール第1位、1995年村松賞新人賞、2004年オーケストラのための「村松ギヤ・エンジンによるボレロ」で芥川作曲賞、2007年音楽についての独自の方法論「逆シミュレーション音楽」がブリ・アルスエレクトロニカ、デジタル・ミュージック部門でグランプリ（ゴールデン・ニカ）を受賞。さらに2008年美術家マーチン・リッチズとの共作「Thinking Machine」が同賞ハイブリッド・アート部門で佳作入選。2009年フォルマント兄弟として「フレディーの墓／インターナショナル」が再び同賞デジタル・ミュージック部門で佳作入選。

モノローグ・オペラ《新しい時代》(2000)、インスタレーション作品《またりさま人形》(2003)などのコラボレーション作品、佐近田展康と共に「フォルマント兄弟」としての創作・講演活動、様々な作品やCDアルバムの発表など、その活動は多岐にわたる。著書に「コンピュータ・エイジの音楽理論」(1995)、さらに「三輪眞弘音楽藝術—全思考1998-2010」により2010年度第61回芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。現在、情報科学芸術大学院大学(IAMAS)教授。旧「方法主義」同人。

URL: <http://www.iamas.ac.jp/~mmiwa/>

野 平 一 郎

東京藝術大学、同大学院修士課程を修了後、フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院に学ぶ。ピアニストとして、内外の主要オーケストラにソリストとして出演する一方、名手と数多く共演し、室内楽奏者としても活躍。古典から現代までの幅広いレパートリーを得意としている。作曲家としてもフランス文化庁をはじめ委嘱を含む多くの作品があり、近年ではオペラ「マドルガーダ」、歌曲集「悲歌集」、チェロのための「謎」、オーケストラのための「トリプティーカ」、チェロと管弦楽のための「響きの連鎖」、混声合唱のための「フランスの7つの詩」などを作曲し、いずれも絶賛を博す。2007年には、バッハ「平均律クラヴィニア曲集」のピアノ、チェンバロ、オルガンを使う全曲録音を行った。同年にはザルツブルグ・モーツアルテウム音楽院のレジデンス・コンポーザーとして招かれた。さらに近年は、指揮者としても積極的な活動を展開、多方面にわたり活躍している。

中島健蔵音楽賞、尾高賞、芸術選奨文部大臣新人賞、京都音楽賞実践部門賞、サントリー音楽賞、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。2005年より静岡音楽館AOI芸術監督。東京藝術大学作曲科教授。

